

該当しないものは線で消してください。

ばい煙 ~~粉じん~~発生施設設置（使用、~~変更~~）届出書

令和 年 月 日

千歳市長 様

押印は不要です。

該当しないものは線で消してください。

届出者 〒066-
住 所 千歳市 町 丁目 -
氏 名 株式会社
代表取締役
電話番号 0123- -

千歳市公害防止条例~~第22条~~（~~第23条、第24条~~）の定めにより、ばい煙、~~粉じん~~発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	株式会社 工場	受 理 年 月 日	年 月 日
工場又は事業場の所在地	千歳市 町 丁目 -	整 理 番 号	号
資本金額又は出資金額	6,000千円	工場・事業場番号	号
就 業 者 数	38人	審 査 結 果	
業 種	自動車部品加工業	ばい煙、 粉じん 発生施設 の 種 類	1 ボイラー
敷地面積（建築面積）	300㎡（180㎡）		
用 途 地 域	準工業地域	ばい煙発生施設の構造 及び使用の方法	別紙1のとおり
主 要 製 品 名	シリンダーヘッド	ばい煙の処理方法	別紙2のとおり
操 業 期 間	通年	粉じん発生施設の構造使用 及び管理の方法並びに 粉じんの処理の方法	
作 業 時 間	8 : 30 ~ 17:30		
公害防止担当部課 責任者氏名	部 課 課長	電話番号0123- -	

- 備考 1 ばい煙、~~粉じん~~発生施設の種類の欄には、千歳市公害防止条例施行規則別表第1及び別表第2に掲げる項番号及び施設名を記入してください。
- 2 この届出書は、指定施設の種類ごとに作成します。
- 3 変更届の場合には、変更のあつた部分について、変更前の内容を上段にカツコ書きで対照させて記入してください。
- 4 印の欄は記入しないでください。

別紙1 ばい煙発生施設の構造及び使用方法

工場又は事業場における施設番号		1			
名称及び型式		冷温水発生機			
設置年月日		令和 年 月 日		年 月 日	
着手予定年月日		年 月 日		年 月 日	
使用開始予定年月日		令和 年 月 日		年 月 日	
規模	伝熱面積 (m ²)	9.0m ²			
	燃料の燃焼能力 (重油換算L/h)	60.0 m ³ N/h (37.5 L/h)			
	火格子面積 (m ²)				
	焼却能力 (kg / h)				
使用状況	1日の使用時間及び使用回数	8 : 30 ~ 17 : 30 25日 / 月 9時間 / 回 1回 / 日		: ~ : 日 / 月 時間 / 回 回 / 日	
	季節変動	なし			
原材料	種類				
	使用割合				
	1日の使用量 (t / 日)				
燃料	種類	13A			
	燃料中の成分割合 (%)	灰分 0%	いおう分 0%	灰分	いおう分
	発熱量 (MJ / m ³)	高位発熱量 : 45.0MJ / m ³ 低位発熱量 : 40.6MJ / m ³			
	通常の使用量 (L / h又はkg / h)	35.0 m ³ N/h (最大60.0 m ³ N/h)		最大 ()	
	混焼割合	100%			
排出ガス量 (N m ³ / h)		最大1366	通常820	最大	通常
排出ガス温度 ()		100			
ばい煙濃度	ばいじん (g / Nm ³)	最大 0.01	通常 0.01	最大	通常
	いおう酸化物 (容量比 ppm)	最大 0	通常 0	最大	通常
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ / h)	最大 0	通常 0	最大	通常
参考事項	重油の比重、空気比	比重		空気比	

- 備考
- 1 設置届の場合には、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届の場合には、設置年月日の欄に、変更届の場合には、設置年月日、着手予定年月日及び使用開始年月日の欄に、それぞれ記入してください。
 - 2 規模の欄の「伝熱面積」には、1項施設の場合記入し、「燃料の燃焼能力」には、3項施設の場合記入することとし、「火格子面積、焼却能力」には、2項施設の場合記入することとします。
 - 3 使用状況欄の「季節変動」には、暖房用ボイラーのように使用期間に変動のある場合に記入してください。
 - 4 原材料欄は、ばい煙の発生に影響のあるものについて記入してください。「種類」には、ばい煙発生施設において使用する原材料の種類及びごみ焼却では、雑芥、厨芥、混合芥等の種類を記入してください。
 - 5 燃料の欄の「種類」には、石炭、重油、ガス等の種類を「燃料中の成分割合」には、灰分、いおう分の割合を重量比%、又は容量比%の別を明記し、「混焼割合」には、重量比%、容積比%の別を明記してください。また「発熱量」には、高位発熱量、低位発熱量の別を明記してください。
 - 6 排水ガス量は、実測値、計画値、燃料使用量からの算出のうち、いずれの方法による値でもよいこととします。
 - 7 排出ガス温度は、原則として排出口におけるものとします。
 - 8 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とし、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とします。

いおう酸化物 (ppm) は、次の式による値とします。

$$\frac{\text{いおう酸化物 (Nm}^3/\text{h)} \times 1,000,000}{\text{排出ガス量 (Nm}^3/\text{h)}} = \text{いおう酸化物 (ppm)}$$

- 9 排出ガス量の算式は、次の式による値とします。

$$W \{Go + (m - 1) Ao\} = \text{排出ガス量 (Nm}^3/\text{h)}$$

$$\left. \begin{array}{l} W : \text{重油消費量 (kg/h)} = \text{最大1時間消費量 (L/h)} \times \text{比重} \\ Go : \text{理論燃焼ガス量 (Nm}^3/\text{kg)} \\ Go = \frac{1.11HL}{1,000} \quad HL (\text{低発熱量}) \quad \text{高発熱量} - 648 \\ m = \text{空気比} \\ Ao : \text{理論空気量} \\ Ao = \frac{0.85HL}{1,000} + 2.0 \end{array} \right\}$$

- 10 いおう酸化物 (Nm³/h) の排出量は、次の式による値とします。

$$0.7 \times \frac{S}{100} \times W = \text{いおう酸化物 (Nm}^3/\text{h)} \dots\dots\dots (q)$$

{ S : いおう分 (重量%) }

別紙2 ばい煙の処理方法

ばい煙に係る処理施設の工場 又は事業場における施設番号		煙突		
処理に係るばい煙発生施設の工場 又は事業場における施設番号		1		
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		煙突		
設置年月日		年月日		年月日
着手予定年月日		令和 年月日		年月日
使用開始予定年月日		令和 年月日		年月日
処	排出ガス量 (Nm ³ /h)	最大		
		通常		
理	排出ガス温度 ()	処理前		
		処理後		
能	ばい煙の濃度	ばいじん (g/Nm ³)	処理前	
			処理後	
	いおう酸化物 (容量比ppm)	処理前		
		処理後		
力	ばい煙量 (Nm ³ /h)	最大	処理前	
			処理後	
		通常	処理前	
			処理後	
補効集率	ばいじん (%)			
	いおう酸化物 (%)			
排出口	実高さ Ho (m)		21.0m	
	頂部口径 (m)		cm x cm	
補正された排出口の高さ He (m)		21.2m		
排出速度 V (m/s)		0.2m/s		
添付書類	1 工場又は事業場附近の見取図 2 ばい煙発生施設及びばい煙処理施設の設置場所を示す図面 3 ばい煙発生施設及びばい煙処理施設の構造の概略図			

備考 1 補集効率の欄は、次の式により、ばいじんについては重量(%)、いおう酸化物については、容量(%)で記入してください。

$$\text{補集効率(\%)} = \frac{(\text{入口ばいじん量} - \text{出口ばいじん量})}{\text{入口ばいじん量}} \times 100$$

2 頂部口径の欄は、丸型() 角型()を明示して記入してください。

3 補正された排出口の高さ(He)は、施行規則別表第7に定める算式により算定したものを記入してください。なお、算定手順は次のとおりです。

$$\left. \begin{aligned} & \text{He} = \text{Ho} + 0.65 (\text{Hm} + \text{Ht}) \\ & \text{Hm} = \frac{0.795 \sqrt{Q \cdot V}}{1 + \frac{2.58}{V}} \quad \text{Ht} = 2.01 \times 10^{-3} \cdot Q \cdot (T - 228) \\ & \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \times \left(2.30 \log J + \frac{1}{J} - 1 \right) \\ & J = \frac{1}{\sqrt{Q \cdot V}} \left(1460 - 296 \times \frac{V}{T - 288} \right) + 1 \\ & Q = W [Go + (m - 1) Ao] \times \frac{273 + 15}{273} \times \frac{1}{60 \times 60} \\ & V = \frac{\text{流量} (\text{m}^3 / \text{sec})}{\text{断面積} (\text{m}^2)} \\ & \quad \left[\begin{aligned} & \text{流量} = Q \times \frac{273 + (\text{排出ガス温度})}{273 + 15} \\ & \text{断面積} = \frac{\pi}{4} \times (\text{頂部口径})^2 \end{aligned} \right] \\ & T = 273 + (\text{排出ガス温度}) \end{aligned} \right\}$$